



ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

今こそ大切な感染症予防対策で安心・安全な公園利用を
暖かい陽のひかり

夏の間は、朝早く動かないと暑くなりすぎて虫が見られなくなります。最近では10時を越さないと出会えないような気がします。場所によって午後からしか陽が当たらないところもありそのことを考えて歩きます。



このところ一番多く出会うのでは、と思っているのがツマグロヒョウモンチョウはしっこが黒いヒョウ柄のタテハチョウです。タテハチョウの中でもヒョウモンのチョウは何種類かいますが、ロクハ公園で出会ったのは2種、比べるとツマグロの意味がよく分かります。自然界でオスメスを比べると、オスが華やかですが、このチョウに関してはメスのほうが目立ちます。しかし、ヒョウ柄の観点で見るとおのほろみごとなのです。

すみれの葉っぱが幼虫の食草で春は花壇のパンジーやピオラによく卵を産み、赤と黒のトゲトゲの幼虫がうようよ育ちます。園芸店には来春用の花が並びます。暖かい陽が続くと一挙に食われる恐れがあります。野生のスミレは、量が少ないので幼虫も困る季節です。

チョウだらけになります

こちらにも陽が出るとよく見かけます。翅の裏の白が樹木や空に目立ちます。暖かさが欲しい時は葉っぱの上で翅をひろげています。オレンジ色がみ水色が♀です。春先から秋深くまでよく見られます。シジミチョウと名前がついていますが飛翔力は全くちがいます。見た目上、わずかな違いで種の違いを見分けるのに、♂♀の別種のごとく違うのに驚きます。(見分けがたいものもありますが)



← クロコノマチョウ
 幼虫から蛹、成体とその変化をたっぴりと見せてくれ、たくさんの人にも観察してもらえた種類。私自身ここでしか出あっていないがロクハ公園ではポピュラーな種。

アサギマダラ →

秋になるとこのチョウの飛来が気になります。ロクハ公園は南へ移動するルートではないと思いますが七夕のように立ち寄ってくれます。気持ちは大騒ぎです。





ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

今こそ大切な感染症予防対策で安心・安全な公園利用を 急展開秋深まる

天気予報どおり日曜から一挙に秋の空気に代わりました。先週は暑いと言っていたのに寒いという言葉が出るようになりました。この急変に一番戸惑っているのは虫たちかも



多目的広場のケヤキの並木が少しずつ茶色に。公園のプロムナードのイチョウは黄色に変化しています。

10/18



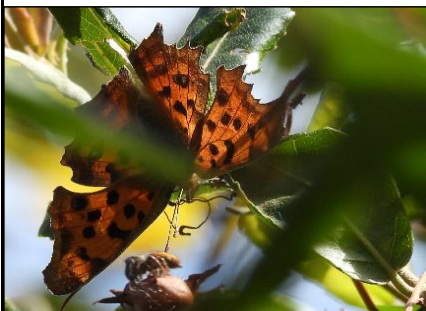
ショウビタキ

寒くなった次の日に姿を見せました。ロシア・中国からやってくる渡り鳥、来年春まで公園にも滞在します。

モズ

童謡「ちいさい秋みつけた」にでてくる歌詞呼んでる口笛、モズの声想像できますか。キーン キチキチキチという高鳴きで縄張り宣言をします。やがて来る冬場の領分を獲得して他を追いやったり、来るなど叫ぶのです。親子・み♀・関係なく一羽ずつが主張します。この声は、時に他の鳥や人にも発している、モズが強いエリアではk鳥が寄り付かなくなるという話を聞いたこともあります。

「百舌鳥」と漢字で記します。これは他の鳥の声をよくマネする春先の様子みたいです。



上2枚 キタテハ

左 アカタテハ

気温が下がると虫たちが動けなくなります。夏場は朝早くから動き吸蜜などを行うのですが、これからはおひさまが出て体が温まらないと動けません。気配を感じて動いた蝶もすぐにとまり体を温めます。観察しやすいです。



これは飾り

ロクハ感謝月間として楽しいイベントが行われています。観察中に発見したハロウィン飾りちょっと幸せな気持ちでした。全部で8個あるとか。公園内にフクロウはいませんが、木彫りのフクロウが2羽とまっています。ぜひ見つけてください。



ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 http://www.park-698.net/zukan/

今こそ大切な感染症予防対策で安心・安全な公園利用を

あかとんぼ

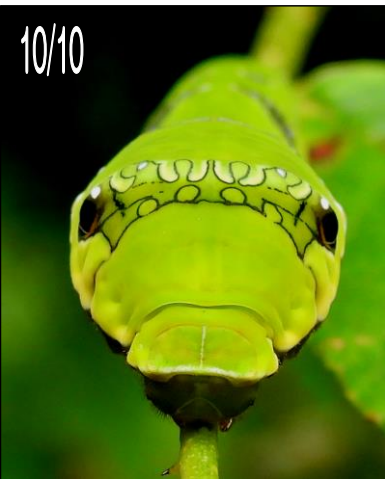
秋のトンボの代表的な呼び名ですがアカトンボという種はいません
ロクハ公園で見られるこのトンボたちが秋の夕日に照らされて赤く
なっていったのでしょう。♪夕焼け小焼けのあかとんぼ♪



上段・下段ともコノシメトンボ
♂♀の違い、成熟・未成熟の違いでまったく別種に見える
頼みの綱は胸側面の黒い筋・翅の端の褐色

上段アキアカネ・下段リスアカネ
双方ともアカネがつくが大きさも翅の端・胸側面の黒い筋など
全く異なる

上段マイコアカネ・下段マユタテアカネ
ロクハ公園では希少なタイプマイコアカネは顔面が青く
マユタテアカネは鼻の用な紋が見られる



モンキアゲハの終齢幼虫
カラスザンショウの葉っぱを食べながら大きくなって終齢幼虫になったもの
その模様からモンキアゲハと分かりました。ナミアゲハやクロアゲハもこの
木を食草にしています。赤い臭角は威嚇の秘密兵器、強烈なにおいがします。



キイロスズメガの幼虫
ヤマモやアサガオの葉っぱによくついている巨大な幼虫
あまりにも大きいので毛嫌いされます。勇気をもって持つと
吸盤の感触がよくわかります。



カラスザンショウの葉っぱを食べています。葉っぱの裏側に赤い臭角が隠れています。



カラスザンショウの葉っぱを食べています。葉っぱの裏側に赤い臭角が隠れています。



ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

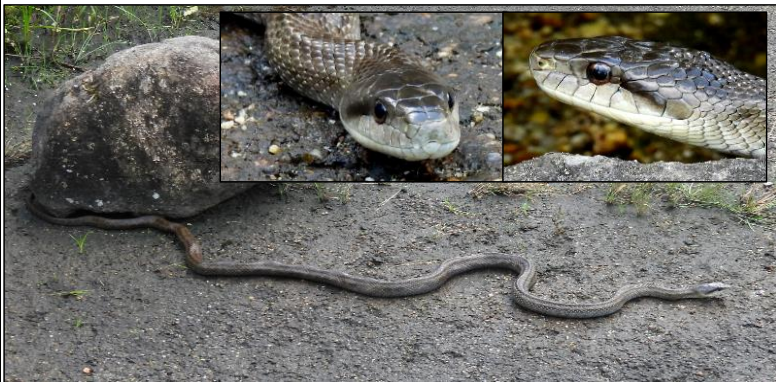
今こそ大切な感染症予防対策で安心・安全な公園利用を 定番キンモクセイ

真夏日になるような暑い日、キンモクセイの花が全開です。
草津市の花はアオバナ、そして草津市の木がキンモクセイ



誰もが知っているあの芳香ゆえに、お便所の周辺にうえられていることが多くロクハ公園もジャブジャブ池近くのトイレの入り口生垣に使われています。この花の白いバージョンがギンモクセイ最初聞いたときは冗談でしょと思うぐらいでした。公園の樹木に触れる機会が多くなりモクセイ科という存在を知りました。木肌が動物のサイのようであるということで木犀。ヒイラギの形の葉を持つヒイラギモクセイもたくさん植樹されています。

モクセイ科の樹木は幅広く園内でも見られます。黄色い花のレンギョウ、イボタノキの木とコンビのライラック、ネズミモチやオリブなど、多くは花の匂いがよくするそうです。納得です。日本のキンモクセイはすべて雄株だそうで実をつけません。中国から運ばれ、挿し木で全国にひろがっているようです。



へびに出会いました。

全くの偶然なのですが、この日1時間内で3回へびに出会いました。何回であってもドキッとします偶然ではなくこの季節の特性としたら、体の動く間に活動的に食に走っているのでしょう。へびに出会い一番に思うことはマムシじゃないか？ということ。滋賀県で見られるのは8種アオダイショウ・シマヘビ・ジムグリ・ヤマカガシ・ヒバカリ・シロダマラ・マムシ・タカチホヘビ。なのにはっきり言えるのはアオダイショウ・シマヘビ・マムシぐらい。記録に残った1種目はアオダイショウ、2種目は何でしょう？



マキの実
赤い部分はけっこうおいしい。緑の部分に種子があり一緒に運ばれるねらい。



山椒の葉っぱにアゲハの幼虫
クロアゲハがモンキアゲハの幼虫。
角のように出ているのが赤いのが特徴。



ミソソバの花の開花
金平糖の花。カエルの形の葉っぱで通じる。
身近に見られたあかし



シュリーゲルアオガエル
ずっとこの木にいるカエル。来季も見られるか。



ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

今こそ大切な感染症予防対策で安心・安全な公園利用を 今回はカタツムリ

身近な生き物として昆虫やダンゴムシ、カエルやトカゲなどが人気があります。カタツムリも誰もが知っている生き物ですが、草津の環境の中で身近な生きものとして見つけにくい存在になっています。



←ロクハ公園では来園者がびっくりするぐらいたくさん見られます。左の写真のように数匹が固まっている時もよくあります。この写真は一種類のカタツムリがたくさん集まっているものを記録したのですが、よく見ると様子が違うものもあります。

右の写真 9/23 観察中にあれっと思うカタツムリに出会いました。殻がずいぶん高く見え今までに2種ぐらいを意識していたのですが真剣に調べはじめました。

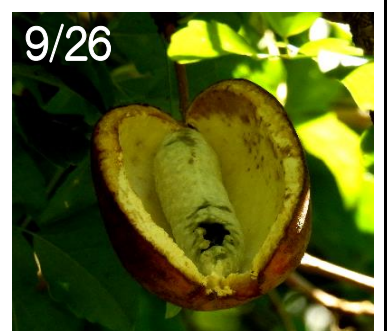


日本には800種ものカタツムリがいると記されておりびっくりしています。そんなにいるのかと感じてしまいますが、移動がすくない生き物なのでご当地カタツムリがたくさんいるそうです。全国どこでも見られる種と地域でしか見られないもので名前がはっきり確認できる資料に見つけれませんでした。

9/26 意識してカタツムリを記録しました。③と④の違いは今思っています。殻は似ているものの体がマダラ模様と真中に黒い線がある違う感じです。個性や性差と見るのかもしれませんが資料によって別の名がついています。⑤の殻は白く入り口部分と渦巻のピンク色がはっきりしています。今のところ4種ということになります。



これは 黄色いヒガンバナ！
あんまり人が良く歩く場所ではないのですが林の中で一株、輝いていました。緑の中ですごく目立ちました。翌日、他の観察者と一緒に確認しました。他の草などをどけて株の様子を見てヒガンバナだなと感心しました。なぜここに？



アケビの実がきれいに開いていました。アケビの実は大きいのがもう開ききって落ちています。見つけたこの実は開いた角度から♡状に見えました。

10月の観察会等

- 10/09 キノコウォッチング(申し込み開始10/1)
- 10/17 昆虫ウォッチング(申し込み開始10/3)
- 10/24 木の奥の日(申し込み開始10/10)



ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

緊急事態宣言に伴う利用制限中9/30まで 詳しくは、ロクハ公園HP www.park-698.net/

9/17



ヒガンバナ

お彼岸の頃に咲く花として、日本社会の中に君臨している花、里の景色がなくなっても日本の原風景として残り続けるような気がします。ものの見事にこの時期に咲くのはどうしてでしょう。あれだけ気やむ春のサクラは桜前線を作り日本を北上していきます。1か月以上の咲く時期の違いがあるのに、ヒガンバナにはそれがないです。勝手に太陽の高度を感じて咲くんだなんて自論作ってしまいます。この花を摘んで帰ると怒られました。「火事が起こる」と。花の形状でしょうし、球根に毒性があるための戒めでしょう。最近は観賞用としてポット栽培も増えていますし、白花などの改良種があります。種ができない花で、花が咲いているのはほぼ人の手で植えられたという結果だそうです。公園内のものはかつてそこが田んぼのあぜだったところ。鱗莖（地下茎の一つ）によって少しずつ繁殖息を増やします。話題が多い花で、それだけ生活に関連しているのでしょう。



9/21

エノコログサ

田んぼでは稲刈りの真っ最中黄金色の穂が刈り取られていきますが、こちらも負けず劣らずの景色です。この穂がイヌの尾っぽに見られ「犬っころ草」転じてエノコログサ？。猫の遊び道具の猫じゃらしとしてつかいました。



9/21

ササキリ

葉っぱの上でもくっきりと緑黒いアクセントが目立ちます。バッタの間は環境に隠れる色多いと思いますが、これは珍しいと思います



9/16

カマキリの産卵

こんな風に作るんだと感激してみました。ソフトクリームのかっぷをつくっているみたいです。どんなふうに卵が並ぶのかわからないです



9/17

アキノウナギツカミ

ミソソバの背の高い環境がいのものと勘違いしていました。くきにギザギザが無数にあり、ヌルヌルのウナギをつかめたのだそうです



9/20

イソヒヨドリその後

NO21で紹介した怪我のイソヒヨドリ元気な姿を目撃されました。公園の愛鳥家の記録に写っていました。キロクされた写真足の様子を見ると間違いありません。足の指機能は回復は難しそうですが、腫れはなく安心して見られました



ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

緊急事態宣言に伴う利用制限中9/30まで 詳しくは、ロクハ公園HP www.park-698.net/

ヤマイモ

公園内のいろんなところで生えています。自然薯としてこの芋を掘り出すのが秋の風物詩になっています。（公園内での採取はできません）栽培では、イモを種イモとして小分けし、筒を使って真っすぐ育つような作業をしたり肥料を与え早く育つ工夫をします。自然界では、毎年同じところで芽を出し、イモを徐々に拡大していきます。子孫を増やすためには、たねやムカゴを作ります。



ムカゴ：種ではなく脇芽が養分を蓄え大きくなったもの。落ちて、春に芽を出し仲間を増やします。若い株でもできます

種：不思議な形状で木が枯れると茶色くなり光沢感が出てきます。この一つに6つの種が入ってます。種は風で飛ばされます。

花：種が想像できる雌花と、たくさんつく雄花があります。9/3の写真と一緒に写っていますが、二つのつるがまきあっているように見えます。雄株と雌株に分かれています。雄花が着く株は多いですが、雌花は少ないです。若い株は花をつけないような気がします。



アケビの実熟す

サツマイモみたいな色になり、割れると食べごろ、公園内では人は食べません。アケビも人が食べるのは歓迎していません。鳥が食べてくれて種を運んでくれるのを待っています。



マテバシイ実熟す

今熟している実は、昨年の春に花が咲き受粉したものです。公園内のドングリの仲間では一番先に熟します。皮が頑丈でクラフトにもむいています



ミヤマガマズミ実熟す

こしは、思ったよりたくさんの実がついています。今はフレッシュな実です。水気がなくなり固い実を好むことも、この場合、種はつぶれてしまいます。



ツツドリ来園

9月初旬から姿を確認し始めました。園内のケヤキやサクラの木につく毛虫がねらいです。この時期この虫で栄養補給し次の目的地に移動するようです。有名な「カッコー」と「ホトトギス」とそっくりです。出会うこの時期は鳴きません。「ぼぽ」となくとか、そこからの命名だそうです。カッコーで有名な他の鳥の巣に卵を産み落とす「托卵」も一緒に。写真は灰色っぽいですが、こげ茶っぽい赤色タイプも来ています。毛虫を捕まえて食べるシーンは必見です。

毎年、律義にロクハ公園にやってくるこの鳥を、毎年楽しみにしておられる野鳥愛好家がたくさんおられます。今年は緊急事態宣言で遠方の方は自粛しておられると思います。10月にカメラで待ち受ける人を見かけられたら一緒に見せてもらおうといいです。感染症対策をして。



ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

緊急事態宣言に伴う利用制限中9/12まで 詳しくは、ロクハ公園HP www.park-698.net/

イシガメ

イシガメが岩の上で凛々しく立っていました。岩の上まで上がるのは大変だと思います。固い甲羅と短い足でよく登れると感激します。この上に、もう一匹乗っていることがあります。この時は葉っぱが乗っていました。公園内、他にはクサガメ、ミシシippアカミミガメ、スッポンが見られます。



9月を鳥観察の年度スタート

渡りをする鳥が立ち寄りたり、居座ったりするのが、始まるのが9月が多いです。カレンダーを見ながら、まだ来ないなーとやきもちします。



スズメより小さな鳥、ここでは初秋のころ立ち寄り。樹上で、ホバリングしながら飛んでいる小さな虫をつかまえる様子を観察できます。(9/7)



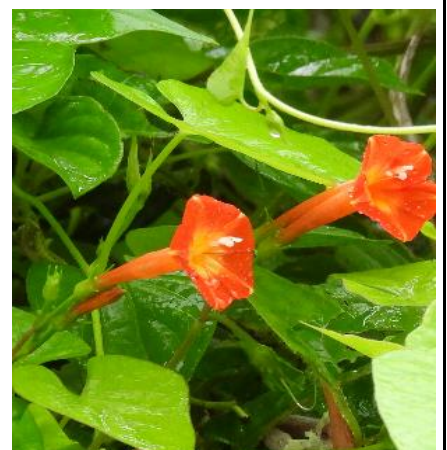
山椒を食べたらのどがひりひりしてこんな声になるだろうということでつけた名前。この写真は8/24のもですが9/6には5・6羽のむれで確認されています。



1年じゅう見られる鳥。公園内で営巣しているしています。夏場は葉っぱで見られることは少ないのですが、目の周りの白を確認するとかわいく思えます



夏場、地肌が丸見えで毛が抜けていくような様子を心配しましたが、今はみんな綺麗な羽根です。白いのは1歳半ぐらいで、カモっぽいのは6歳以上です。川原池をベースに、自転車置き場、ジャブジャブ小川などてくてくと歩いていきます



9/3 マルバルコウソウ

今の時期たくさん咲いています他の植物に覆いかぶさるように繁殖しています。侵入生物として警戒もされています。同じぐらいの大きさで、白いマメアサガオもよく似た場所で咲いています。



9/4 クロノマチョウ幼虫

かわいい、バイキンマンみたいな顔を持つ幼虫です。小さい間はみんな寄り添います。ある程度大きくなると一匹ごとに葉っぱを独占していきます



ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

緊急事態宣言に伴う利用制限中9/12まで 詳しくは、ロクハ公園HP www.park-698.net/

イソヒヨドリR

ロクハ公園内で個体識別できるものに「R」の称をつけています。何度も確認され、識別できる特徴がはっきりするものに親しみを持っていてつけています。

8/25



8/25



8/27



8/25 確認され記録が残り始めて1週間、散歩の方が何人も通過されますが、その都度止まる場所を代えます。少し安定感が、出てきたように感じます。落ちていたアカメガシワの種をついばんだり、近くの木のサクラにいるケムシを食べます。トイレと炊事棟を行ったり来たりです。8/27の写真は痛い足にも力が入っているようです。

8/29



8/30



8/31



8/29、花だんでスズメガの大きな幼虫を発見、食べるかなと思い、地面に置くとすぐさまおりてきて捕獲。屋根の上に運び食べました。8/30、屋根の上からサクラの木の枝に移り、毛虫をさがします。これまでは、他の場所から虫を見つけ飛んできてました。8/31、余裕を持った片足立ち痛々しさを感じません。こんな狭いエリアですつというのは療養中だからとしか考えられません。



8/26リスアカネ



リスアカネ



コノシメトンボ



ノシメトンボ

アカトンボというのはこれからよく見られる小型のトンボの総称です。種類が多くこの時期になるとこれは何かと確認したくなるのですが、肉眼での観察では難しいことが多いです。上記3種は翅の先が黒くわかりやすいです。胸部、側面の模様が異なり見分けるのに有効です

←8/30 モンキアゲハ

公園入口のプロムナードに並べられている高床花壇で吸蜜していました。翅をばたかせているのですが明るいので高速シャッターで撮影されたようです

8/31 クリ →

綺麗に熟しています。クリのみが3つならんでいます。両サイドのクリの形と真ん中のクリの形違うのをご存じですか。両面が平らになっているのが真ん中の実です。





ロクハの自然

facebook「ロクハ自然」 www.facebook.com/rokuhapark ロクハ公園HP www.park-698.net/ ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

いつの間にか夏がおわりそう

高校野球の進行が一週間近く伸びてしまって、いい天気になってほしいと思っていたらいつの間にか8月下旬、公園はまもなく渡りの鳥たちがやってきます

8/24傷ついたイソヒヨドリ

イソヒヨドリは本来、森や林の中にはいません。が、ここしばらく同じようなところで目撃されています。あまり動かないようで、情報によると足の様子が変で心配でした。この日確認でき様子を見ました。



公園内で見られる野鳥が家屋の軒にいるのはめったにないです。やはり調子が悪いのでしょうか。羽毛の様子は、若鳥で生え変わる時期かもしれません。

足に注目しました。ぼっこりと腫れています。特に右足の腫れがひどく細かい繊維が絡んでいるようです。左足も少し腫れているようですが、片足立ちは左です。セグロセキレイがよく似た症状でしばらく苦勞し腫れが引くとケガがわからない状況で歩いていました。指の機能はなくなってました。



観察している間に2度食事をしました
左側の写真はアカメガシラの種がずいぶん落ちていようようです。パクパクとついばんでいました。で急に飛び立ったかと思うとさくらの枝から毛虫をとってきました。いつものように調理しおしいそうに食べました。防火用バケツの縁にとまって給水もしていました。何とかエサを食べ体力を維持し足の腫れが引いてくれるといいのですが、見守るしかありません

今までにも出会った傷ついた鳥たち



2018/11/11 ハセキレイ
多目的広場の芝生の上でじっとしてました。土中に潜む幼虫をとって、栄養を取りながら足の腫れに耐えていました。腫れが引くと他の個体と見分けがつきにくいぐらいに動いてました。



2021/01/19 ルリビタキ♀
出会ったときから右足の指は伸びません。枝にとまる時は、片足立ちです。2年続きでロクハ公園を訪れています。今年もやってくるか注目しています。



2021/08/24ヘクリカズラ
2017/11/26 ジョウビタキ♀
こちらはくちばしの上に大きな腫物ができた個体、しばらく「おできのジョウビタキと呼んでました。2週間ぐらいで腫れはひきました。

